在京古高同窓会会報
第49号
〒352-0031
新座市西堀2-17-37
在京古高同窓会事務局
☎・FAX (042) 494-1598
URL http://www1.ttcn.ne.jp/~furuko
Email skyoji@jcom.home.ne.jp
発行責任：曽根　研一
編集長：亀井　明
印　　刷：(株)ケーヨー

# ご挨拶

会長　髙橋　俊裕

暖かい春を待ち続けるうちに、何時の間にか初夏となってしまいました。同窓生の皆様にはお元気でお過ごしのこととお慶び申し上げます。

さて、あれから1年2ヵ月が経ちました。TV・新聞などでは、色々特集を組むなど、あの大震災を風化させないように努力しているように見えます。それでも報道の中味を見てみると、なかなか実態が読めません。あの時のことが中心で、その後の動きがいま一つ分らないように思うのです。衣・食・住の対策は一応手が打てているようですが、〝生きる〟ということへの支援がまだまだ足りないように思います。

仮設住宅に住み、義援金その他で食物・衣類には困らなくなっていると云っても、一人・一人が社会生活の中で自分の役割を見出せないようでは、本当の支援・復興にはつながらないと思います。

被災後の様々な支援を受けて〝働く〟ことを忘れた避難者に、いわき市長がクレームをつけていた報道を眼にしました。復興（まずは人の立直り）の為には、何よりも本人の〝自助〟の意識が大切でしょうし、それを強力に支援する仕組みこそが望まれます。もう一つ、復興についても、堤防などを再構築して元の集落に戻すことでよいのでしょうか。

例えば古川の七日町に往年の商店街を作って、かつての賑わいが取戻せるのでしょうか。震災の地区の多くは、この数十年の間に過疎化が進行し、高齢化している点で共通項があります。このことを充分踏まえて、新しい街づくり村づくりをしていく為には〝私権〟の大巾な制限も必要でしょう。

コンパクトで機能的で快適な街をつくる為に産業構造まで含めたビジョンをつくりあげていくべきでしょう。それはまた私達の思い描く故郷とは大きく異なるものになるでしょうが、それが私達の〝故郷〟が生き延びる術だと思うのです。

さて、本年の活動は例年のことながら1月28日（土）の旧市内四校新年会からスタートしました。昨年より若干少ない参加者でしたが、昨年の古工甲子園出場など各校の元気のいい話題を中心に大いに盛り上がり、あらたに絆を深めたことでした。

3月1日母校の卒業式、男女共学も板についてきて、昔のバンカラは影をひそめ、むしろスマートでエレガントな校風が出てきたように感じました。

鈴木校長から7月の在京同窓会には、在京の大学生も誘って出席したいとのお話をいただきました。OBだけではなくOGも出席してくれることを願っています。7月7日（土）の総会（**8面参照**）を楽しみにして下さい。

また本年も会員交流行事はふるさと探訪ツアーとしました（詳細は**別掲▼**をご覧下さい）。

古川の北部から平泉・三陸と廻って仙台を巡る予定です。多数のご参加を期待しています。総会でお会い出来ることを楽しみにしてご挨拶といたします。

# ご挨拶

古川高等学校長　鈴木　悟

昨年度は、総会、江戸・東京探訪ツアー、そして旧古川市内四校関東同窓会「新年のつどい」と3度、在京同窓会の皆様方の熱い母校愛に触れることができて、大変嬉しく思いました。ありがとうございました。

また、総会に母校への東日本大震災復興支援金授与のため、生徒会長の須藤大勝君をお招きいただきましたこと。さらに、四校関東同窓会に、母校の「南校舎お別れの会」実行委員長の田中草太君に趣旨説明の時間を割いていただきましたこと、重ねて感謝申し上げます。

同窓生の皆さんからは「同窓会に、若い世代にもっと参加して欲しい」「現役の古高生に会って様子を聞きたい」という要望が寄せられておりましたが、現役生が実際に同窓会に参加させていただいたことにより、少しずつ変化が生まれてきたように思います。

在京の大学に進んだ卒業生が定期的に情報交換をしたり、そうした仲間で在京同窓会と積極的に連携しようとしたりしていることはその現れのひとつと言えましょう。

今春の卒業生は、3年生になる直前に東日本大震災に遭いました。大学進学や将来の仕事を考える上で、大震災と様々な形で向き合わざるを得なかったはずです。

「日々の学びが、震災復興にきっと役立つと信じてがんばろう」と言い聞かせて受験勉強を重ね、今春、上級学校に進んだ彼らを、仲間としてお迎えください。よろしくお願いいたします。

また、私自身も微力ながら、少しでも母校のお役にたつために精進する所存です。今年度も昨年同様よろしくお願いいたします。

## ―在京同窓会メモ―

- 会計年度は4－3月、年会費は一口2,000円です。
- 会の健全運営のため、振替用紙が同封された方には、納入をお願い致します。
- 次回会報第50号は2013年1月1日発行予定、原稿は常時受付。

奮ってご参加ください。探訪の中に鎮魂を込めて！

## 「ふるさと探訪ツアー２０１２」のご案内

**ー世界遺産「平泉」の歴史ロマンと北上川水系の宮城の明治村「登米」（とよま）を訪ねてー**

日　　時：平成24年10月25日(木) ～ 26日(金)　(1泊2日)

※コース概略

1日目：古高訪問→平泉（中尊寺、毛越寺）→双林寺(築館)と伊豆沼→南三陸町（宿泊予定）

2日目：南三陸町被災地巡礼→登米散策（旧登米尋常小学校・武家屋敷・郡役所ほか）→日和山(石巻)→多賀城史蹟→仙台

ツアー費：男性25,000円(見込み) 女性23,000円(見込み)（ＪＲ古川へ、仙台からの交通費を除く）

問い合わせ先：在京古高同窓会事務局（佐々木恭次）

Tel/Fax：０４２-４９４-１５９８　E-mail: skyoji@jcom.home.ne.jp

本部同窓会事務局だより

# 在京同窓会に謝意を表す

古川高校同窓会
会長　渡邊　義之

今年は大崎の春の訪れが遅く、例年より遅れてここ大崎の地にも漸く田植えが始まり、蛙の声が聞こえる季節が参りましたが、在京同窓会の皆様お元気でお過ごしのことと拝察致します。また日頃から高橋会長さんを中心に素晴しい活動を実践しておりますことに対し、心から敬意を表する次第です。

今回は「蛍雪」49号の紙面をお借りして在京同窓会への私なりの謝意を表したいと思います。

先ずは、昨年は東日本大震災という未曾有の大災害で大変な年でしたが、在京同窓会の皆様方が、母校や母校の被災生徒を案じられ、いち早く被災生徒の為の募金活動を実行され、それに呼応して本部同窓会と関西同窓会も募金活動を実施し、総額５００万円を越える善意のお金が集まりました。昨年10月、鈴木校長先生立会いのもと、被災生徒に奨学援助金として給付することができました。これ偏に在京同窓会の先見性と迅速な実践力の賜物と心から感謝申し上げます。

次に、多年にわたり、母校生の活躍を支援する「東京蛍雪賞」を贈呈し、在校生の大いなる励みになっておりますことに対し、生徒と共に謝意を表します。

次に、例年の総会に在京の会長さんを始め、多くの方々に参加して頂き、昨年は曽根副会長さんのご尽力により、大活躍中の同窓音楽家の演奏会を伴う総会を成功裡に開催できましたことに対し、改めて曽根副会長並びに同窓音楽家に感謝を致します。

次に、在京・在仙・本部同窓会の一層の連携と絆の強化を目的に、三者共催の「ふるさと探訪ツアー」が在京同窓会の発案・企画によって実施され、大きな成果をおさめていることに対し、これまた謝意を表します。

終わりに、在京同窓会の一層の発展と皆様方のご健勝を祈念し、感謝の言葉と致します。（昭34年卒）

# 近況報告

事務局長　工藤　昭裕

在京同窓会会員の皆様、いつもお世話になっております。昨年の東日本大震災に際しましては、在京同窓会より母校被災のご心配とお心遣いを頂き、誠にありがとうございました。また、「母校古高および被災古高生に義援金」窓口を設立しましたところ、多くの同窓生の方々から５００万円を超える義援金をお寄せいただきました。早速住居の全半壊等甚大な被害を受けた生徒達に、一人当たり在校期間中に年額12万円を奨学支援金として給付いたしました。皆様からお寄せいただいた温かいご支援に心から感謝申し上げます。今後とも生徒達を古高後輩として暖かく支援して参りたいと思いますので、何卒よろしく御願い申し上げます。

また、去る3月1日行われました卒業式では、在京同窓会会長高橋俊裕様にご臨席賜り、東京蛍雪賞授与と祝辞を頂きましたことに御礼申し上げます。

卒業式風景

申し遅れましたが、私は本年度より事務局長を仰せつかりました昭和49年卒業の工藤昭裕（高26回）と申します。昨年度本校に赴任いたしました。前任の大山同様よろしくご指導賜りますようお願い申し上げます。

さて、震災2年目の本年度は、4月9日に例年通り入学式を行い、２２９名（内女子92名）の新入生を迎えました。また、本年度から約2ヶ年をかけた南校舎の改築工事が始まり、仮設校舎での学校生活がスタートしました。

入学式　校歌披露

昨年は規模を縮小して開催した対築館高校定期戦は4月27日に本校を会場に全種目開催され、9勝6敗で古高が勝利し、4連覇を達成しました（通算成績36勝14敗3分け）。この定期戦を迎えるにあたって、新入生は入学当初から厳しい応援練習に耐え、この1ヶ月で校歌、図南歌、凱歌、応援歌等を覚え、真の古高生となったことと思われます。

次に今年の卒業生の進路状況についてご報告申し上げます。今年3月の卒業生も昨年の卒業生同様に、「文武両道」の旗印の下、その実力を遺憾なく発揮しました。国公立への現役合格率者数は、昨年の92名に続き、医学部医学科2名、一橋大、東京外語大、東北大6名の難関大学を始め、90名の進学を果たしました。受験勉強スタートの段階で、震災という困難に遭遇しながら過去最高の進路結果を残しました。今後ますますの躍進と期待を込め、進路指導により一層の力を注いで参りたいと思っております。詳しくは別紙進路一覧表をご覧ください。

対築館高校定期戦開会式　選手宣誓

部活動では、総体でソフトボール部の第2位、バレーボール部男子の第3位、また、新人戦では陸上部の高橋未来さんが３０００ｍで東北大会出場、スキー部の今野省吾君が大回転で東北大会へ出場するなど、各部活動とも大いに活躍しました。個人種目では、ボーリング国体少年女子で、遠藤明日香さんが昨年の団体第7位入賞に引き続き、個人第6位に入賞しました。東北大会出場など各種目で好成績を残しました。

最後に本年度の本部同窓会総会のお知らせです。本年度は8月4日（土）に大崎市古川の「芙蓉閣」で開催いたします。本年度は記念講演としまして、仙台地方裁判所所長である田村幸一様のお話を予定しておりますので、どうぞ奮ってご参加ください。また、本年度当番幹事は高18・23・28・33・38・43回生になります。是非本部同窓会を利用し、同期会の場としてお集まり頂けますよう重ねて御願い申し上げます。（昭49年卒）

# 東京蛍雪賞

去る3月1日に行われた卒業式には高橋会長が出席し、生徒会・クラブ活動等、生活全般にわたり功績のあった2名の卒業生に東京蛍雪賞を授与しました＝写真。

受賞の生徒会長・須藤大勝君（卓球部・不動堂中出身）と、応援団長・大益祐司君（ソフトボール部・古川東中出身）から、お礼の手記が届いておりますので、以下にご紹介いたします。

## 仲間がいての生徒会長

生徒会長　須藤（すとう）　大勝（はると）

この度は東京蛍雪賞という素晴らしい賞をいただき、嬉しく思っています。本当にありがとうございました。

卒業を迎え、この3年間を振り返ってみますと、充実した日々であり、入学して良かったと思います。質実剛健、自主自律、学問尊重を掲げる古川高校で蛍雪健児たる精神を培うことができました。その中で生徒会長であったことが一番の心の支えであります。

会長就任当初は、本当に自分が会長として務まるのか心配でした。しかし、周りのサポートもあり、自分らしく頑張ろうと思いました。

私は生徒のために、古高のために全力を尽くそうと誓いました。それを果たすべく毎日がむしゃらに努力しました。その努力した経験は、私を一回り大きく成長させてくれました。これも仲間がいたからこそだと思います。

私はこの度いただきました東京蛍雪賞に恥じぬように、また古高で学んだことに恥じぬように、これからの人生を精進していきたいと思います。本当にありがとうございました。

## 特別な一年を超えて

応援団長　大益（おおえき）　祐司

この度は東京蛍雪賞という名誉ある賞をいただけることに感謝申し上げますとともに大変嬉しく思います。

２０１１年の始まりは大変悲惨なものでありました。東日本大震災の影響により、学校の始まりは1ヶ月近く遅れ、様々な点で問題も起こりました。

その影響は伝統ある戦い築館高校との定期戦にも及びました。開催は遅れ、さらに規模も縮小となってしまいました。

しかし、震災の復興という中、築館高校の皆様を始め、開催のためにご支援いただいた方への感謝を忘れず、私たち古高生は選手、応援団共に戦い抜きました。結果は勝利という素晴らしいものでしたが、私たちはその戦いの中でもっと素晴らしい絆を深めることができました。

震災から1年が経ち、私たち3年生はいよいよ卒業を迎えます。これから十人十色の道を歩むことになりますが、古高での3年間を忘れず、その誇りを持ち、胸を張って歩いて行きたいと思います。

最後に在校生である1・2年生、そして春に入学する新入生による古川高校の発展を願いまして、私の最後の仕事を終えさせていただきたいと思います。

左より高橋会長、大益君、須藤君

## 平成24年度進路状況（現役のみ）

### 国立大　75名

| 大学 | 学部 | 男 | 女 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 北海道 | 総合理系 | 1 | | 1 |
| 北海道教育 | 教育 | | 1 | 1 |
| 弘前 | 人文 | 2 | | 2 |
| | 医・保健 | | 2 | 2 |
| | 農 | 1 | | 1 |
| 岩手 | 人文社会 | 3 | 2 | 5 |
| | 教育 | 1 | | 1 |
| | 工 | 5 | 1 | 6 |
| | 農 | 1 | 2 | 3 |
| 東北 | 文 | | 1 | 1 |
| | 経済 | 1 | 1 | 2 |
| | 教育 | 1 | | 1 |
| | 工 | 1 | | 1 |
| | 農 | | 1 | 1 |
| 宮城教育 | 教育・中等 | 3 | 3 | 6 |
| 宮城教育 | 教育・初等 | 2 | 2 | 4 |
| | 特別支援 | | 1 | 1 |
| 秋田 | 教育文化 | 1 | | 1 |
| 山形 | 人文 | 2 | 1 | 3 |
| | 地域教育 | 2 | 3 | 5 |
| | 理 | 1 | | 1 |
| | 工 | 1 | | 1 |
| | 医・医 | 1 | | 1 |
| 福島 | 人文社会 | 1 | 1 | 2 |
| | 理工 | 1 | | 1 |
| 茨城 | 工 | 1 | | 1 |
| 宇都宮 | 国際 | 1 | | 1 |
| | 工 | 1 | | 1 |
| 埼玉 | 経済 | 1 | 1 | 2 |
| 千葉 | 工 | 1 | | 1 |
| 東京海洋 | 海洋工 | 1 | | 1 |
| 東京外 | 国際社会 | 1 | | 1 |
| 一橋 | 社会 | 1 | | 1 |
| 横浜国立 | 経済 | 1 | | 1 |
| | 理工 | 1 | | 1 |
| 新潟 | 法 | 1 | | 1 |
| | 教育 | | 1 | 1 |
| | 工 | 4 | | 4 |
| 富山 | 理 | 1 | | 1 |
| 信州 | 人文 | 1 | | 1 |
| | 工 | 1 | | 1 |
| 三重 | 生物資源 | 1 | | 1 |
| 合計 | | 51 | 24 | 75 |

### 公立大　15名

| 大学 | 男 | 女 | 計 |
|---|---|---|---|
| 釧路公立 | | 1 | 1 |
| 岩手県立 | 1 | | 1 |
| | | 1 | 1 |
| | 3 | | 3 |
| 宮城 | 1 | 3 | 4 |
| 秋田県立 | 1 | | 1 |
| 福島県立医科 | | 1 | 1 |
| 首都大東京 | | 1 | 1 |
| 石川県立 | 1 | | 1 |
| 兵庫県立 | 1 | | 1 |
| 合計 | 8 | 7 | 15 |

### 私立大　338名

| 大学 | 学部 | 男 | 女 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 北海道医療 | 心理科学 | 1 | | 1 |
| 北海道薬科 | 薬 | 1 | | 1 |
| 八戸工 | 感性デザ | 1 | | 1 |
| 岩手医科 | 薬 | 1 | | 1 |
| 富士 | 経済 | 1 | | 1 |
| 盛岡 | 文 | 1 | 2 | 3 |
| 石巻専修 | 経営 | 2 | | 2 |
| | 理工 | 4 | | 4 |
| 仙台 | 体育 | 1 | | 1 |
| 東北学院 | 文 | 4 | 6 | 10 |
| | 法 | 18 | 1 | 19 |
| | 経済 | 26 | 13 | 39 |
| | 経営 | 12 | 6 | 18 |
| | 教養 | 10 | 10 | 20 |
| | 工 | 14 | 1 | 15 |
| 東北工 | 工 | 5 | 1 | 6 |
| | ライフデザイン | | 2 | 2 |
| 東北生活文化 | 家政 | | 2 | 2 |
| 東北福祉 | 総合マネ | 3 | 2 | 5 |
| | 総合福祉 | 1 | 12 | 13 |
| | 健康科学 | 2 | 5 | 7 |
| | 子ども科 | 3 | 3 | 6 |
| 東北薬科 | 薬 | 4 | | 4 |
| 宮城学院女子 | 学芸 | | 19 | 19 |
| 仙台白百合女子 | 人間 | | 5 | 5 |
| 東北文化学園 | 医療福祉 | 1 | 3 | 4 |
| 尚絅学院 | 総合人間 | | 4 | 4 |
| ノースアジア | 法 | 2 | | 2 |
| | 経済 | 2 | | 2 |
| 秋田看護福祉 | 看護福祉 | | 1 | 1 |
| 東北芸術工科 | 芸術 | | 2 | 2 |
| いわき明星 | 科学技術 | 1 | | 1 |
| つくば国際 | 医療保健 | | 1 | 1 |
| 流通経済 | 法 | 1 | | 1 |
| 国際医療福祉 | 保健医療 | 2 | | 2 |
| 高崎健康福祉 | 保健医療 | | 1 | 1 |
| 群馬医療福祉 | 看護 | | 2 | 2 |
| 埼玉工業 | 工 | 3 | | 3 |
| 駿河台 | 心理 | 1 | | 1 |
| | 経済 | 3 | | 3 |
| 獨協 | 法 | | 1 | 1 |
| 文教 | 文 | 1 | | 1 |
| | 教育 | 1 | | 1 |
| 尚美学園 | 芸術情報 | | 1 | 1 |
| 千葉工業 | 工 | 1 | | 1 |
| 秀明 | 学校教師 | 1 | | 1 |
| 青山学院 | 法 | | 1 | 1 |
| 学習院 | 文 | 1 | | 1 |
| 北里 | 医療衛生 | | 1 | 1 |
| | 獣医 | | 1 | 1 |
| 杏林 | 保健 | | 2 | 2 |
| 国立音 | 音楽 | 1 | | 1 |
| 慶應義塾 | 法 | 1 | | 1 |
| 国士舘 | 理工 | 1 | | 1 |
| 駒沢 | 医療健康 | | 1 | 1 |
| 順天堂 | スポーツ | 2 | | 2 |
| 大東文化 | 文 | 1 | | 1 |
| | 外国語 | 1 | | 1 |
| | スポーツ | 1 | | 1 |
| 拓殖 | 工 | 2 | | 2 |
| 中央 | 文 | 1 | | 1 |
| | 経済 | 2 | | 2 |
| | 理工 | 2 | 2 | 4 |
| 帝京 | 医療技術 | | 2 | 2 |
| 東海 | 工 | 1 | | 1 |
| | 海洋 | 1 | | 1 |
| | 生物 | 5 | | 5 |
| 東京電機 | 工 | 1 | | 1 |
| | 理工 | 1 | | 1 |
| 東京農 | 地域環境 | 1 | | 1 |
| | 農 | 2 | | 2 |
| | 生物産業 | | 1 | 1 |
| | 応用生物 | | 2 | 2 |
| 東京理科 | 理工 | 2 | | 2 |
| | 基礎工 | 2 | | 2 |
| 東洋 | 国際地域 | | 2 | 2 |
| | 総合情報 | 1 | | 1 |
| | 理工 | 2 | | 2 |
| 日本 | 国際関係 | | 1 | 1 |
| | 工 | 2 | | 2 |
| | 生産工 | 1 | | 1 |
| | 生物資源 | 1 | | 1 |
| 日本獣医生命 | 獣医 | 1 | | 1 |
| 日本女子 | 家政 | | 1 | 1 |
| 法政 | 文 | 1 | | 1 |
| | 法 | 1 | | 1 |
| | 理工 | 2 | | 2 |
| 武蔵野 | 文 | 1 | | 1 |
| 明治 | 法 | 1 | | 1 |
| | 政治経済 | 1 | 1 | 2 |
| | 理工 | 2 | 1 | 3 |
| 明治学院 | 文 | 1 | | 1 |
| 明星 | 理工 | 1 | | 1 |
| 立教 | 現代心理 | 1 | | 1 |
| | 経済 | 1 | | 1 |
| | 異文化コ | 1 | | 1 |
| 早稲田 | 文化構想 | 1 | | 1 |
| | 法 | 1 | | 1 |
| | 教育 | 1 | | 1 |
| 神奈川 | 経済 | 1 | | 1 |
| | 工 | 2 | | 2 |
| 神奈川工科 | 情報 | 1 | | 1 |
| 関東学院 | 文 | 1 | 1 | 2 |
| | 法 | 1 | | 1 |
| | 工 | 1 | | 1 |
| 湘南工科 | 工 | 3 | | 3 |
| 東京工芸 | 芸術 | 1 | | 1 |
| 長岡造形 | 造形 | 1 | 2 | 3 |
| 新潟薬科 | 薬 | 1 | | 1 |
| 日本福祉 | 社会福祉 | 1 | | 1 |
| 同志社 | 経済 | 1 | | 1 |
| 立命館 | 法 | 1 | | 1 |
| | 国際関係 | | 2 | 2 |
| 合計 | | 208 | 130 | 338 |

## 第十九回　旧古川市内四校新年の集い

### 第19回 旧古川市内四校関東同窓会「新年の集い」に参加して

昭42年卒　大友　文博

恒例の第19回旧古川市内四校関東同窓会「新年の集い」が1月28日に東京上野の精養軒で開催されました。私は初めてこの会に参加したのですが、古川高校、古川黎明高校、古川工業高校、古川学園高校の出身の方々など男女230名余に上る多数の方が出席し、各校からの挨拶や講演、余興などがあり大変楽しいひとときでした。

私など昭和42年卒の「団塊の世代」はまだまだ若手の部類であり多くの先輩方がお元気にご歓談をしておられ、関東地区でも旧古川四校出身の方々が大変ご活躍されてきているという印象を強く受けました。

第一部の総会では、今年の幹事校である在京古高同窓会高橋会長より大震災から早く立ちあがり、穏やかな日が再び来ることを祈念するとともに、増税等で混迷する国政に対して一票を大事にし、日本の将来のために努力していきたいとの挨拶がありました。古高からは鈴木校長の挨拶とともに今年3月に卒業予定の田中草太君（慶応大進学）より、地震の被害もあって解体される古い南校舎を記念し、3月17日に卒業生有志で名物先生や先輩を招待して南校舎送別会を開催するとの紹介がありました。

古川黎明の佐々木校長からは今年初めて中高一貫制による卒業生がでたが、首都圏の有名大学へ多数進学できたこと、黎明出身のWBC女子ミニ・フライ級世界チャンピオンが誕生した紹介がありました。

古川工業の森校長からは野球部の甲子園初出場と出場にあたって9000人に上る多くの方からいただいた支援への感謝のお礼と、野球だけでなく陸上関係でも全国大会での優勝があり、地域の皆さんに元気をあげることが出来大変良かったという挨拶がありました。

古川学園の宮本校長は震災によりメインの校舎が全壊し、10数億円の被害がでたこと、さらに今後の少子化への対応が大きな課題であると述べられておりました。

来賓の伊藤大崎市長からは大崎市の被害状況や復興7年計画（目標年度平成29年度）について写真やデータの入ったスライドでの説明があり、市長から物心両面にわたる多くの支援に対してお礼が述べられました。

講演では古川高校出身（S45年卒）で、河北新報社の岩瀬取締役東京支社長＝**写真**＝から「仙台人と東京」という題で、大震災の復興へ粘り強く対応している東北人を明治維新で賊軍として扱われ、出世の道から遠ざけられたつらい時代と重ね合わせながら、仙台藩が江戸の町づくりに果たした役割や人材について紹介がありました。仙台藩が江戸時代に助役として神田川放水路の掘削工事などにより現在の神田駿河台を作ったことや、人材面では北辰一刀流の開祖千葉周作、洋学者で高嶋秋帆や佐久間象山などと交流があった大槻磐渓が「積塵成山」という備忘録にドーバー海峡の海底トンネルの概念図を載せていたことや、フランスの政治体制を初めて「共和制」と訳したなど宮城仙台の偉人の功績を紹介し、仙台と東京が近くに感じるという講演がありました。

藤岡奈穂子選手を囲んで

第二部は懇親会に移り、幹事団代表の挨拶に始まり、古川黎明高校出身でWBC世界チャンピオンの藤岡奈穂子さんとそのチャンピオンベルトを囲んだり、卒業年を中心にグループごとに懇親を行うとともに、各有志による歌や踊りの余興を楽しみました。

卒年別テーブルで和やかな懇親会

初めて参加して感じたことは、各高校の置かれた状況は異なりますが、各校ともいろいろな分野で活躍しており、古川黎明や古川学園がスポーツのみならず、進学校としても高い地位を築き始めていることは、半世紀近く故郷を離れている私には印象的でした。

特に中高一貫制は東京の有名私立高校では当たり前になっていますが、早い段階から優秀な素質の生徒を確保し、6年間一貫した教育を行うので進学面のみならず、中間の高校受験がない分ゆとりもあり、趣味や友達づくりにもメリットがあります。わが母校も中高一貫制など時代の変化にいろいろな知恵を出しながら対応していくことを期待しております。

（5面に岩瀬氏の講演資料を掲載）

### ＜第19回四校合同新年会　古高出席者名簿＞

〔四校来賓〕（敬称略）伊藤　康志（大崎市長）　赤間　幸人（大崎市役所）　佐々木欽三（首都圏大崎連絡協議会会長）　伊藤　長市（東京古川会会長）

〔古高来賓〕（敬称略）鈴木　悟（学校長 佐沼出身）　渡邊　義之（同窓会会長 S34卒 東大崎出身）　高橋　亨（同窓会副会長 S23卒 古川出身）　相澤　信（同窓会副会長 S35卒 古川出身）
大山　義男（同窓会事務局長 S56卒 岩出山出身）　松谷　篤郎（関西蛍雪会会長 S40卒 古川出身）　〈田中　草太（古高3年）〉

〔会員80名〕（カッコ内は出身地）

昭18 加藤　茂(古　川)
昭20 安部善次郎(古　川
　髙橋　昭典(古　川)
昭24 門脇　健(東大崎)
昭26 角田　啓輔(古　川)
　谷地森　税(古　川)
昭27 佐藤　清勝(中新田)
　中森　高(岩出山)
　春田　紘輔(古　川)
昭28 中川　裕雄(志　田)
昭29 金原　章郎(古　川)
　佐藤　郁郎(古　川)
昭29 佐藤　興市(松　山)
　佐藤　茂(古　川)
　佐藤　廣(岩出山)
　高橋　浥(中新田)
　長浦　稠（古　川)
　早坂　清吉(三本木)
　八尋　恭平(宮　崎)
昭30 相原　相(色　麻)
　尾崎　光彦(田　尻)
　門脇喜代志(東大崎)
　門脇　敏明(東大崎)
　岸　康男(鳴　子)
昭30 佐々木英三(志　田)
　佐々木　豊(古　川)
　佐藤　忠良(三本木)
　佐藤　輝久(荒　雄)
　瀬戸　順悦(不動堂)
　曽根　研一(西大崎)
　高橋　廣(小野田)
　塚田　容三(中新田)
　平野　武(長　岡)
　三塚　正志(高清水)
　横山　武(松　山)
　和田　勝義(田　尻)
昭30 渡辺　吉郎(志　田)
昭31 相澤　昭男(三本木)
昭32 佐藤　満行(大　衡)
昭33 大友　正行(松　山)
　齋藤龍次郎(小牛田)
　佐々木光一路(古　川)
　佐藤　厚(古　川)
　髙橋　俊裕(富　永)
　成田　良元(長　岡)
昭35 岩崎　光任(宮　沢)
　佐々木武磨(敷　玉)
昭36 菅野　俊次(古　川)
昭36 児玉　隆行(古　川)
昭37 千坂　孝夫(荒　雄)
昭38 阿部　重人(岩出山)
　佐々木恭次(古　川)
　高橋　忠世(田　尻)
昭39 上野　正司(鳴　子)
　後藤　雍正(宮　崎)
　笹原　誠一(古　川)
　渋谷　栄男(荒　谷)
昭40 古内　晋典(西小野田)
昭41 菊地　務(古　川)
　八木　正志(鳴　子)
昭42 伊藤　倉雄(小野田)
　大友　文博(田　尻)
　佐々木昭美(田　尻)
昭44 青沼　文昭(古　川)
　伊澤　正雄(岩出山)
　高橋　修一(登　米)
昭45 猪股　謙二(宮　崎)
　岩瀬　昭典(岩出山)
　＝講演講師
　内田　和博(西古川)
　北村　善明(岩出山)
　佐々木　質(田　尻)
昭45 佐々木裕祥(富　永)
　佐藤　実(高清水)
　藤井　茂樹(真　山)
　茂庭　進(三本木)
昭46 大島　秀世(岩出山)
　＝本部会員
　笠間　邦彦(涌　谷)
　鈴木　規仁(中新田)
昭51 早坂　時男(古　川)
昭55 亀井　明(小牛田)

# 「仙台人と東京」

河北新報社東京支社長
岩瀬　昭典

記念の会合に講師としてお招き頂きまして、大変光栄に存じます。故郷を離れて30年以上という方たちが大半だと聞いておりますので、本日はこの東京と仙台人がどのようにかかわり、人間として如何に磨かれてきたかを、「仙台人と東京」と題してお話ししてみたいと、考えております。

まず初めに、皆さんにお尋ねしようと思いますが、東京など首都圏の地名（ただし昭和、平成の合併前の行政区域名）と、大崎、宮城県在住時代の同級生やご自分の苗字が同じというケースが多いことに不思議を感じたことはありませんか。

例を挙げますと「葛西」「豊島」「千葉」「三浦」「足立」「熊谷」「結城」・・・。数は少ないのですが、仙台には「江戸」を名乗る人もいます。岩出山には「氏家」「伊東」も結構いましたね。これらの名前は、源頼朝の奥州攻めに参加して手柄を立て、平泉藤原氏の滅亡後、その領地を分け与えられた鎌倉御家人に端を発していると言えるんです。

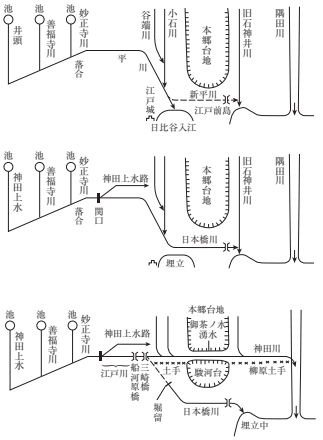
厳密に問いただせば、明治以降にもらった苗字だという人もいるかもしれません。それでも東北の人間は、関東と極めて深いつながりがあることはお感じになるでしょう。

## 神田駿河台の成り立ち

大名諸侯の領地・禄高は将軍（天下人）に安堵されたものです。それゆえ、諸侯はいったん不穏な動きがあれば、禄高に応じて武器や兵を求められた場所に貼り付け、将軍家を守らなければなりませんでした。糧食も輸送負担も時前が当然でした。

しかし、徳川幕府が安定しだすと、軍役に代わって助役（すけやく）が中心になってきます。平時の軍役と言っていいでしょう。それが江戸の都市整備（天下普請）のお手伝いでした。徳川家康の関東入封は1590年。それ以来、江戸城はじめ江戸の街整備は続けられ、ひとまず完成を見たのは70年後でした。

この中で、仙台藩が助役として取り組んだ神田川放水路（現・神田川）の掘削工事は知っておくべき大工事です。（図参照）




元和6（1620）年、第三次天下普請として2代将軍秀忠によって、伊達政宗に命じられた。本郷台地を掘削して神田上水路の流路を隅田川につなげる。この完成で駿河台ができた（御茶ノ水工事）。

万治3（1660）年、4代将軍徳川家綱によって政宗の孫の伊達綱宗に「牛込和泉橋間舟入堀拡削工事」として命じられる。

延長約3キロの放水路を8間（14・4メートル）に広げる難工事。高1万石当たり100人を出さねばならなかったから、仙台藩は6200人を徴発。4万9504両を負担しなければならなかった。

## 千葉　周作（1794～1855）

言わずと知れた「北辰一刀流」の開祖。神田お玉が池の千葉道場で、数多くの剣士を育て、弟の代には、坂本龍馬ら維新の志士たちを輩出しました。千葉周作は荒雄（大崎市）出身とも高田（岩手・陸前高田市）出身ともいわれますが、生家が仙台藩の郷士であったことは間違いありません。先祖は伊達氏の前に岩手県南、宮城県北沿岸を支配した葛西氏に仕えていたという見方があります。

父親の代に一家を挙げて今の千葉県松戸市に移り、父親はそこで馬医者を営んで周作兄弟を大人にしました。松戸にはその父親の墓が現存していますので、天保から始まる幕末の動乱期に、ルーツの地に舞い戻った可能性があることは捨てられません。

## 大槻　磐渓（1801～1878）

この人は仙台藩の名だたる学者一家の生まれで、洋学者ですが、先祖は葛西氏の家臣だったことを明言しています。銀座一丁目から新橋までまっすぐ延びる木挽町に住み、関八州代官の江川太郎左衛門、砲術家の高嶋秋帆、佐久間象山らと緊密に行き来していました。外国の技術を学び、砲術家としても高く評価されています。「大言海」という国語辞典を編纂した大槻文彦の父と言えば分かるでしょう。

この磐渓は広い人脈と学識を生かして集めた資料を「積塵成山」と名づけた何冊もの備忘帳にまとめて残しています。その中で面白いものを一つ挙げれば海底トンネルの断面図でしょうか。

絵図には「仏国至英国 火輪車地道」との説明書きがありますから、ドーバー海峡の海底（蒸気機関車）鉄道の概念図であることは、はっきりしています。

ドーバー海底トンネルの完成はそれから150年近く後のことですから、どのようにしてこんな情報を磐渓が手に入れたかを思うと、まさに驚きですね。当時のフランス政体を日本語で「共和制」と最初に訳したのも彼なんですね。

さて、磐渓は慶応元年（1865年）に仙台に戻り、藩校の「養賢堂」の学頭に任じられますが、古参の事務方に陰湿な妨害を受け、一時はノイローゼになりました。

仙台人は進取の気質に富み、さまざまな新知識を自分のものにするのが特長ですが、思いがけない足引っ張りには弱い。そんな典型例だったのでしょうか。

当時、仙台で見られた落首に「大槻は同じ木なりと思ひしに　今度（こたび）の槻（つき）はき（木＝気）がちがふ也」というものがありますが、江戸で名をはせた学者の苦渋は想像を絶するものがあったと思えます。

磐渓の紹介が長くなりますが、奥羽列藩同盟結成に向けた仙台藩の誓書を藩主に命じられて彼が書いています。戊辰戦争で敗れた結果、これが重罪視されました。本来ならば切腹もまぬがれないところでしたが、学者としての評価と高齢によって、終身禁固とされました。雪冤（せつえん＝不当な罪を帳消しにし、名誉回復すること）が成るのは、明治22年、彼の死から11年経ってからのことでした。

## 千葉卓三郎（1852～1883）

大槻磐渓が養賢堂の学頭を務めた時の弟子の一人に千葉卓三郎がいます。この人は13歳で養賢堂の学生仲間と戊辰戦争に出陣し、白河口の戦いに参戦しています。敗れて賊軍にされた惨めな思いから、さまざまな学問や宗教を学ぶ必要があると痛感したのでしょう。

函館でギリシャ正教に入信した仙台藩士らの影響もあり、江戸から名を改めた東京に出てニコライ神父のもとでギリシャ正教を学びました。しかし、ロシアの国教という限界を感じたのか、ニコライの許を離れ、高名な儒学者の安井息軒や横浜のプロテスタント教会などで学問、宗教遍歴を重ねます。

仙台藩士の子弟でこの時期、東京や横浜に出て外国語をはじめ法律、貿易などを学ぼうとした人たちは3000人近くに達したとの説もあります。

さて、千葉卓三郎が明治13年ごろに姿を現すのが、当時神奈川県に所属していた五日市（東京・あきる野市）です。地域の有力者たちが資金を出して運営していた五日市勧能学校の教師を務め、土地の若者たちと一緒に法律の学習会に参加していくのです。

五日市を含む三多摩地域は、近藤勇や土方歳三ら新撰組の幹部を出した土地柄であり、自由民権運動の拠点でもありました。明治維新以降は賊軍と蔑まれた仙台藩士に親近感を抱いていたようです。戊申戦争で隊を率いて戦った永沼織之丞という仙台藩士を勧能学校の校長に招き、その伝手から千葉卓三郎も教師に雇ったようです。

千葉は法律の勉強から、自由民権運動とともに活発化した憲法作りに精力を注ぎ、明治14年後に「五日市憲法草案」と呼ばれる民間提案の憲法を起草します。

この憲法は日の目は見なかったのですが、204条から成り、うち150条を基本的人権に費やしています。国民の権利については、戦後の日本国憲法に近い内容もあり、当時としては極めて画期的な憲法草案と評価されています。しかし、千葉は結核の進行で起草から2年後、31歳の若さで逝去しています。

## 富田鉄之助（1839～1916）

仙台藩の重臣の家に生まれ、藩命により江戸で砲術を学びました。勝海舟の息子・小鹿に付き添って米国留学しますが、一時は本藩の苦境を知って帰国しようとし、勝に諭されて勉学を続けました。

日本への複式簿記の導入者として知られるホイットニーの下で経済学、商学を学びました。ニューヨーク領事心得、清国上海総領事などを歴任し、外務省、大蔵省で能吏として活躍。日本銀行第2代総裁、東京府知事も務めています。仙台藩出身者で当時、これほど高い地位就けたのは、富田自身の有能さもさることながら、外国との交渉力、世界経済の動きを見る目に卓越したものがあったからだと言えましょう。

さて、富田のことで今日、強調したいのは東京府知事時代の三多摩視察のエピソードです。三多摩は千葉のところでも紹介したように、藩閥政府にとっても手が余る反政府論者の巣窟でした。このため、多摩川上水の導入強化を表向きの理由として、神奈川県から東京府に分割編入させることが決められました。

明治25年、富田は反発が高まる多摩地方を知事として視察した際、載っていた船を若者たちに揺さぶられて沈められるなどの散々な嫌がらせを受けています。

宿泊先の旅館で開いた地元有力者との懇談会では酔客を装った男に膝枕を強要されましたが、顔色も変えずに、求めに応じ、逆に集まった人たちを静かな口調で説得する大物ぶりをみせました。

賊軍とされた痛みを知る旧仙台藩士・富田の真骨頂だったと、三多摩では伝わっています。

本日は時間の関係で準備してきた仙台人の紹介はできませんでしたが、お渡しした表（本紙面では割愛）にある先人の事績を是非調べていただければ幸いです。

# 会員による自由投稿

## 古川は心の「ふるさと」

昭20年卒　髙橋　昭典

私は84歳の年男。「ふるさと」は聞かれれば遅滞なく「古川」と答えるが、古川にいたのは僅か13年。あとの殆どは東京生活なので、古川は故郷と言えるのかと迷うが、辞書をみると、「ふるさと」は漢字で「故郷」、「古里」、「故里」と書き、自分が生まれた土地、古跡、かつて住んだことのある土地をいうとあるので安心した。

ところで過日、同窓会長の髙橋俊裕さんが就任の挨拶で「私の本籍は宮城県遠田郡富永村狐塚字薬師堂拾九番地」であると、私の原籍地と全く同じ地番をいわれたのでびっくり。早速尋ねてみると私の家の本家筋の方（私の髙橋家は明治初期に18年間富永小学校の校長（初代）をした祖父髙橋金平の先代のときに分家）。早速同戸籍の絆で「髙橋家」の由来を調べてみた。

髙橋の本家は私の子ども時代は堀と土壁で囲まれていた広い屋敷の家。菩提寺の長照院（富永馬放）の本家の墓で墓誌をみると、初代の「髙橋助之進」は文禄3年88歳没と書いてある。当時としては極めて長命で（2代目髙橋助右衛門も91歳没）、髙橋（タカは梯子髙）の姓があり、家紋も亀甲の中に「水」の字という独特のものなので、髙橋の本家は、平民だが伊達の殿様から苗字帯刀を許されて地域の水利を司っていた庄屋であったらしい。

ところで助之進が没した文禄3年（1594年）は、安土桃山時代の末期で伊達政宗が朝鮮に出兵した年の翌年。髙橋助之進が生まれたのは1506年だが、伊達政宗は1567年に米沢で生まれ、1588年に大崎氏を討滅、1590年に葛西・大崎一揆を平定、1591年に岩出山に居城を移して、広大な沖積平野である大崎地方で大規模な新田開発とあるから（政宗が仙台城に移ったのは1601年）、初代の髙橋助之進は、「大崎」から「伊達」にかけて戦乱の時代を新田開発でしたたかに生き抜いてきたのだろう。

以上髙橋家は1500年代から500年以上続いてきた家柄だが、調べてみると「古川」の歴史はとても古い。「宮城県の歴史散歩（宮城県高等学校社会科教育研究会歴史部会編）」をみると、①旧石器時代の古川馬場壇・岩出山座散乱木の遺跡、②縄文晩期の田尻中澤目貝塚、③古墳中期の古川青塚古墳、④古墳後期の三本木山畑横穴群、⑤古墳末期の古川日光山古墳群・岩出山川北横穴群・田尻木戸窯跡群・古川大吉山窯跡群、⑥645年の古川名生館遺跡、⑦8世紀頃の宮沢遺跡など、BC5000年頃から人が住んでいた遺跡が沢山あって、これは私たちの誇りである。

また古川の瑞川寺法橋河原に「古川市慶長九年御町割方検断佐々木云々」の記念碑があるが、慶長9年（1604年）というと伊達政宗が岩出山から仙台に移った3年あと。これをみると古川は相当早くから発展していたのだろう。

ところで古川地帯の領主は誰だったのか？　調べてみると1400年頃から1590年までは奥州探題大崎氏で名生城が居城。大崎氏滅亡後は一時伊達政宗、その後明智光秀の旧臣木村吉清・清久が秀吉から葛西・大崎12郡30万石を貰って名生は清久の居城だったというが、その木村は1591年に「葛西・大崎一揆」で滅亡したので、その後は伊達の直轄領だったのだろう。古川の瑞川寺が伊達政宗の重臣鈴木和泉守元信によって慶長年間（1596～1615年）に再興され、その山門は古川城の搦手門を移築したものとあるから、多分そうだろう。

ところで私の小学生時代の古川には、小学唱歌「ふるさと」の「うさぎ追いしかの山、小ぶなつりしかの川」があって、稲刈りのすんだ田圃で兵隊ごっこ、小川で鮒や鯰釣りをして遊んだことなどは今でも夢にでてくる風景だが、「こころざしをはたして、いつの日にかかえらん」心境になるかと聞かれると、そこは微妙。山は青いか、水は清いかも気になるが、「人生いたるところ青山あり」で、墓地を東京に造り、本籍が東京に変わり、家族が東京で仕事をとなると、中々帰郷の決心はつかない。悲しいことだが、やはり「故郷は遠くにありて思うもの」なのだろう。

## 「在京ぎゃろっぱ会」に参加

昭和26年卒　角田　啓輔

昭和18年4月、旧制古川中学に入学した人達（新制高校1期生と旧制の48期生）で行われている親睦会の名称が「在京ぎゃろっぱ会」である。この会は、毎年2回行われており、春の梅～桜、秋は紅葉の時期に東京都内の名所旧跡等を散策した後、懇親会場に向かうパターンで、今回は第19回を迎え、去る3月27日に開催された。世話役として三浦澄能さん、門脇健さんのご両人。

開催案内には～春の後楽園・神楽坂・割烹「加賀」を楽しむ～と記してあった。当日10時40分、JR飯田橋駅東改札口に集合（会場直行者2名を除き9名集合）し、飯田橋駅から1km程に在る、東京に残る深山幽谷「小石川後楽園」に到着する。

庭園の案内書には水戸黄門ゆかりの大名庭園であり、四季折々の花で賑わい、花の見頃の時期も明記されていた。中でも「枝垂れ桜は、3月下旬に見事な花を咲かせます」と記載されていたが、今年の天候では、残念ながら梅の開花のみでも良しとせねばと思った。

小石川後楽園にて

約1時間弱の園内散策後、神楽坂へ向かう。皆さんすでに傘寿（80歳）を過ぎているが、坂を上る姿は年齢に関係ない軽快さだった。坂の途中で善国寺に立ち寄る。寺は1595年に徳川家康が創建し、神楽坂の毘沙門様として古くから人々の信仰を集めてきた由。寺から3分程で割烹「加賀」に到着した。

会場に直行された2名の方を含め、予定人員11名全員集合した。メンバーの中に古川と仙台から2名の参加者があり、乾杯の後マスコミ等で知らされていない郷里の状況報告等があった。創業60年の老舗、加賀百万石時代からの懐石料理を賞味しつつ一献傾ける。懇談の中でも、この会に元気で参加する人達は常に健康維持のため自己管理に努めているのだと感じた。

本田技研で活躍された斉藤馨さんは、ウォーキングで現在までずでに歩いた走行距離が3万キロ。更に現在4万キロを目指して挑戦努力中。達成すると地球1周に値するとの事である。

仙台在住で弁護士をなさっている髙橋勝夫さんは、仲間や若い人達と共に毎年海外にゴルフをやりに出掛けるそうで、80過ぎた現在でも継続しているとの事等々。懇親の集いもアッという間に楽しく過ぎ、全員起立して、校歌及び図南歌を声高らかに合唱して終了。

最後に門脇さんから、次回は10月頃に映画寅さんでお馴染みの葛飾柴又で開催する旨予告があり、長寿を祝い、更なる健康を祈念し、再会を楽しみに解散した。なお、この会は敬慕する先輩・今野敞さんも入っていましたが、先年亡くなられたので、その追悼の意味で仲間に入れて頂き、この様な寄稿と相成った次第です。

最後になりましたが、毎回良い時期に綿密な計画の基、素晴らしい場所を案内していただき、世話役の三浦澄能さん、門脇健さんご両人様に厚く御礼申し上げ、ペンを置きます。

## 平成23年度会費納入状況一覧（平成23年４月１日～平成24年３月31日）

・同窓会活動の財源としての会費を、皆さまにご協力いただきありがとうございました。
・平成23年度の年会費を納入された方々のご芳名を記して、お礼に替えさせていただきます。
・平成23年度の納付書で本年４月１日以降に納入された方の年会費は、平成24年度分として会計処理させていただいておりますのでご了承下さい。

| 卒年 | 氏名 | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 昭 7 | 杉下夘兵衛 | | | | | | | | | |
| 昭12 | 狩野　節夫 | | | | | | | | | |
| 昭14 | 岩城　有信 | 中澤　廣 | | | | | | | | |
| 昭16 | 今野　栄喜 | 高橋　三郎 | 福島　光男 | | | | | | | |
| 昭17 | 宍戸　衛 | | | | | | | | | |
| 昭18 | 加藤　茂 | 豊嶋　耘三 | 渡辺　三男 | | | | | | | |
| 昭19 | 青沼　康男 | | | | | | | | | |
| 昭20 | 安倍善次郎 | 青沼　瑞夫 | 熊谷　虎夫 | 後藤　雅久 | 高橋　昭典 | 日野　次朗 | | | | |
| 昭22 | 大曽根良衛 | 鈴木　昌男 | 松本　慶造 | 諸岡　久男 | 門馬　秀夫 | | | | | |
| 昭23 | 鈴木　大吉 | 半田　慶男 | | | | | | | | |
| 昭24 | 我孫子静夫 | 門脇　健 | 小林　昭 | 齋藤　馨 | 齋藤　弘 | 早坂　揆男 | 三浦　敬三 | 三浦　澄能 | | |
| 昭25 | 荒井　隆 | 岸　勝也 | 工藤英三郎 | | | | | | | |
| 昭26 | 岡本　昭 | 柏倉　亮夫 | 佐々木　惇 | 佐藤　進 | 鈴木　桂吾 | 鈴木　俊男 | 角田　啓輔 | 中澤　令是 | 谷地森　税 | |
| 昭27 | 跡部　太一 | 天野　仁二 | 石川　久夫 | 岩渕　弘 | 氏家　明朗 | 遠藤　安郎 | 大内　健 | 大内　史彦 | 太田　徹 | |
| | 大場　恒明 | 斉藤林寿郎 | 佐澤　正剛 | 佐藤　清勝 | 菅井　一 | 菅原　峯雄 | 瀬川　博義 | 中森　高 | 春田　紘輔 | |
| | 本田　惇 | | | | | | | | | |
| 昭28 | 小元　広悦 | 岡本　典憲 | 加藤　源治 | 金子　康 | 佐々木修規 | 中川　裕雄 | 早坂　明久 | 久光　栄 | 山田　四郎 | |
| 昭29 | 岩渕　瑞穂 | 近江　誠一 | 小川　春男 | 大沼　悟 | 金村　繁 | 金原　章郎 | 菊地　務 | 佐藤　郁郎 | 佐藤　興市 | |
| | 佐藤　茂 | 佐藤　廣 | 関　信良 | 関口　克己 | 高橋　清亮 | 高橋　浥 | 高橋　勇悦 | 長浦　稠 | 早坂　清吉 | |
| | 福富　啓祐 | 三浦　憲一 | 八尋　恭平 | 湯本　良師 | | | | | | |
| 昭30 | 相原　相 | 浅野　和夫 | 尾崎　光彦 | 門脇　敏明 | 門脇喜代志 | 岸　康男 | 木村　哲彌 | 京極　恒由 | 小松　伍郎 | |
| | 佐々木英三 | 佐々木清七 | 佐々木　豊 | 佐藤　輝久 | 佐藤　忠良 | 菅原　利吉 | 鈴鴨　貞清 | 諏訪　政志 | 瀬戸　順悦 | |
| | 曽根　研一 | 高橋　廣 | 塚田　容三 | 都築　侔 | 中澤　丙吾 | 中村　惇 | 二階堂幸男 | 平野　武 | 三塚　正志 | |
| | 師山　政夫 | 山中　廣志 | 横山　武 | 和田　勝義 | 渡辺　吉郎 | | | | | |
| 昭31 | 阿部　進 | 浅野　平男 | 相澤　昭男 | 浅野　清 | 浅野　森男 | 安住栄喜男 | 生亀　功 | 石川　勝夫 | 伊藤　公男 | |
| | 大石　隆一 | 奥村　信良 | 木村　智明 | 熊谷　正俊 | 今野　仁 | 佐々木　寛 | 田中　稔夫 | 長井　弘策 | 松谷　嘉男 | |
| | 森　茂樹 | 森谷　文彦 | | | | | | | | |
| 昭32 | 相沢　成憲 | 相澤　賢郎 | 遠藤　康光 | 大久保　通 | 大森　英樹 | 木戸　秀彦 | 紺野　栄司 | 佐藤　満行 | 佐々木勝也 | |
| | 佐々木吉弥 | 下屋　勝 | 竹谷　靖夫 | 長沼　三郎 | 沼倉　和雄 | 野田　利美 | 原　清三 | 門間　俊二 | | |
| 昭33 | 大友　正行 | 大山　隆志 | 小堺　勉 | 今野　聡 | 佐藤　厚 | 佐々木光一路 | 齋藤龍次郎 | 菅原　富男 | 鈴木　邦夫 | |
| | 鈴木　節夫 | 鈴木　将夫 | 高橋　俊裕 | 三浦　義明 | 森谷　拓夫 | 成田　良元 | 野村　高義 | 早坂　英郎 | 福原　喬夫 | |
| | 藤本　幸昭 | 結城　睦夫 | 芳野　嘉美 | 渡邉　紘也 | | | | | | |
| 昭34 | 青沼　行雄 | 片平　光昭 | 宍戸　志智 | 篠崎　喜亘 | 宮野　貞司 | 村上　金吾 | | | | |
| 昭35 | 阿部　信雄 | 石田　靖夫 | 伊藤　勝利 | 岩崎　光任 | 宇佐美　潔 | 梅沢　和男 | 内田　將夫 | 大澤　邦敏 | 大沼　直紀 | |
| | 北村　忠則 | 黒岩　弘一 | 今野　正弘 | 佐々木恭二 | 佐々木武磨 | 佐々木庸二 | 鈴木　喜昭 | 中鉢　育玄 | 早坂　尚 | |
| | 吉水　英彦 | 我妻　一美 | | | | | | | | |
| 昭36 | 大曽根秀憲 | 大益　弘 | 江碕　肇 | 片倉　康 | 菅野　俊次 | 児玉　隆行 | 佐々木錬三 | 佐藤　宗博 | 菅泉　徹 | |
| | 髙橋　幸裕 | 長井　清 | 枡澤　敬 | 永上　武彦 | 吉田　二郎 | 我妻幾久寿 | | | | |
| 昭37 | 宍戸　照男 | 杉野　邦熙 | 高橋　国夫 | 田口　正志 | 千坂　孝夫 | 本田美喜夫 | | | | |
| 昭38 | 浅野　勝吾 | 阿部　重人 | 大曽根　昇 | 大場　和男 | 菅野　英俊 | 木村　康之 | 佐々木恭次 | 佐藤　勝昭 | 残間　忠夫 | |
| | 菅原　清春 | 菅原　廣吉 | 高橋　勝也 | 髙橋　忠世 | 宮本　信夫 | 渡辺　将郎 | | | | |
| 昭39 | 石堂　達夫 | 上野　正司 | 後藤　雍正 | 佐々木国男 | 笹原　誠一 | 渋谷　栄男 | 菅原　静 | | | |
| 昭40 | 浅野　仁也 | 佐藤　啓三 | 武田　俊夫 | 古内　晋典 | | | | | | |
| 昭41 | 遠藤　賢 | 菅野　静義 | 菊地　務 | 今野　忠雄 | 佐々木宗實 | 鈴木　宏一 | 髙橋　秀之 | 八木　正志 | 渡辺　幸之 | |
| 昭42 | 伊藤　倉雄 | 稲辺　仁 | 大友　文博 | 木村　智則 | 酒井　信一 | 佐々木昭美 | 佐藤　勉 | 浜田　泉 | | |
| 昭43 | 佐々木　博 | 田口　義昭 | | | | | | | | |
| 昭44 | 青沼　文昭 | 伊澤　正雄 | 木村　久一 | 高橋　修一 | | | | | | |
| 昭45 | 荒川　忠一 | 猪俣　謙二 | 内田　和博 | 鬼沢　愼一 | 小畑　伸一 | 北村　善明 | 佐々木　質 | 佐々木裕祥 | 佐藤　実 | |
| | 藤井　茂樹 | 茂庭　進 | | | | | | | | |
| 昭46 | 加藤　伸 | 笠間　邦彦 | 鈴木　規仁 | 高堀　昭己 | 森谷　隆 | | | | | |
| 昭47 | 相澤　司 | 工藤　春彦 | 鈴鴨　繁 | | | | | | | |
| 昭48 | 桜井　俊一 | | | | | | | | | |
| 昭50 | 蘇武　芳則 | 早坂　明彦 | | | | | | | | |
| 昭51 | 榎本　光博 | 斎藤　信也 | 菅原　博之 | 道家　篤夫 | 早坂　時男 | 細川　源治 | | | | |
| 昭53 | 浅野　正則 | 髙橋　昭彦 | | | | | | | | |
| 昭54 | 村井　勇二 | | | | | | | | | |
| 昭55 | 亀井　明 | 佐々木三男 | 鈴木　健之 | | | | | | | |
| 昭62 | 相澤　政宏 | | | | | | | | | |


佐藤　啓三（S40年卒 中新田）

中小企業診断士
ISO（品質・環境）主任審査員
エネルギー管理士
東京都温室効果ガス検証主任者

携帯 090-1438-9132
FAX 045-953-3894
E-mail:fzn04730@nifty.com
〒241-0004 横浜市旭区中白根2-22-19

内科・小児科
長井内科
院長　医学博士
長井弘策
［昭和31年卒（高8回）
古川高校同窓会副会長］
〒989-6154
大崎市古川三日町1－3－25
TEL 0229（91）1020

髙橋昭彦（昭和53年卒 田尻）
ライフプラン・コンサルタント
「法人向け」及び「個人向け」生命保険を取り扱っております。
生命保険について相談したい方がいらっしゃいましたら、私が
日本全国対応いたします。是非、ご相談またはご紹介下さい。

Gibraltar
ジブラルタ生命

ジブラルタ生命保険株式会社
東京第5エリア　千代田第七支部
〒101-0044
東京都千代田区鍛冶町2-2-2
TEL：03-3254-6701
携帯：080-7015-4064
E-mail:akihiko.takahashi@gib-life.co.jp

情報処理のエキスパート　完成図書・デジタル化総合サポート
電子納品作成支援
おまかせください！
導入から成果品まで専任スタッフがきめ細かく対応しバックアップいたします。

専任スタッフ・有資格

| | |
|---|---|
| CALS/ECインストラクター | 4名 |
| 電子化ファイリング | 5名 |
| ファイリングデザイナー | 2名 |
| 文書情報管理士 | 5名 |

代表取締役会長　早坂清吉（昭和２９年卒）

株式会社ケーヨー
http://www.keyo.co.jp　E-mail:info@keyo.co.jp
本　社　〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 4-1-6
☎03-3242-0191　FAX03-3242-0167

## 旧校舎送別会に参加して

昭55年卒　亀井　明

3月17日に、卒業生主催の旧校舎の送別イベントがあるとの案内があり、東京から参加して来た。旧校舎は30数年前、私が高校時代を過ごした校舎であり、それがついに取り壊されることになったとの知らせを受け、「自分もそうだが、校舎も歳を取ったということか・・」という感慨に浸って当日参加した。

当日朝、生徒主催のイベントながら、玄関前で鈴木校長自ら案内に当たられており、生徒と鈴木校長の絆が感じられた。

開会までの間、旧校舎の控え室にて待機していたが、教室内は当時とほとんど変わりなく感じられ、石油ストーブが設置されているのも同様だった。

その後、開会となり、昭和の時代の懐かしいビデオの上映が1時間強ほどあった。私が高3の時の映像もあり、当時の記憶が呼び戻され、大変懐かしい思いでいっぱいだった。当時、このような記録を撮って、しっかり編集されていたことは全く知らず、放送部がしっかりといい活動をしていたことが伺える。

イベントを主催した今春の卒業生有志諸君

願わくば、過去の映像資料をデジタル化して頒布できるようにしていただければ、OBにとって学校時代の記憶を再確認できる貴重な記録となり、部活動の一助にもなるのではないかと考えた。

その後、テーマソングの披露や校舎に縁のあるOBや旧職員の方々の感想が寄せられ、自分も僭越ながら一言感想を述べさせていただいた。

最終的には数十人の参加者が集まり、成功裡にイベントは終了した。自分が高校生の時分に、こういったイベントが生徒主催で行われたことがあっただろうかと自問自答してみると、今の後輩諸君達は自分が高校生の時よりも大人なのかもしれないな、という印象を受けて、校舎を後にした。

## 会員通信

●昨年は郷里の震災被害を一見して、胸が痛みました。津波に一命を失った親類の法事に女川の現地を訪ね、すさまじさに絶句。復興と原発処置のスピードアップを促したいもの。今こそ絆の太さが問われるときでしょう。今年もできるだけ連帯の取組みに微力を寄せるつもりです。（S24三浦澄能）

●今年は80歳の年を迎えて、何か世の中の為になること少しでもしたい。そこで身体の許す限り「ガンバレ東日本」と、心から支援したいと行動中です。（S26柏倉亮夫）

●平成22年6月から、職員4万6千人必読の警視庁月刊誌「自警」の短歌選者をやっている。毎月百余の応募から30首を選び、添削と選評をやり、月末の3日位は忙しくも楽しい。昨夏、東京湾岸署（旧水上署）から招かれて、30年前の刑事課長の私他2名が、東京港から横浜港往復2時間を大型艇で楽しんだ。水上署は西新井署刑事課長代理2年と本部捜査一課殺人担当5年の警部を経て、最初の管理職だったので懐かしい。当時は署員400、舟艇42で、覚せい剤押収量日本一とか、大量けん銃密輸事件などを思い出す。只当時の黄色かった東京湾の水が綺麗になった事に吃驚した。（S26鈴木桂吾）

●昨年11月、小学校の同級会で松島に行きました。仙台の若林JC以北の海側は明り一つなく、街側は不夜城でした！大震災・大津波で亡くなられた魂の復興をお祈りしました。（S30岸　孝仙）

●昨年6月・11月の2度、仙台市宮城野区に行きましたが、震災の現場は、戦災と比べると、不気味な静寂に包まれていました。合掌。（S34青沼行雄）

●昨年も宮城県にボランティア活動で行ってきましたが、今年も是非行くつもりです。被災地は、まだまだボランティアを必要としています。（S35黒岩弘一）

●東日本大震災にあわれ、今だ不自由な生活をされている皆様に、心よりお見舞い申し上げます。年末・年始は、息子夫婦・孫たちが、赴任中の中国より一時帰国し、娘たちも含め、久しぶりに全員で楽しく元気で過ごすことができ、その幸せを噛み締めています。（S35我妻一美）

●昨年10月、郷里古川に帰省しました。懐かしくて夜、駅前大通りから七日町を歩いて、街の暗さに驚かされました。商店街の疲弊は全国的な問題と承知はしていたものの大変寂しい思いを致しました。早く震災の影響をハネ返す力で町の復旧・復興が図られることを期待し願っております。（S36長井　清）

●大震災の慰霊と鎮魂に、四国八十八ヶ所と被災地3県を巡礼しました。線香・読経も心空しいものでありました。（S36枡澤　敬）

●福島の田舎に住んで6年になりました。昨年は大地震、台風、放射能と大変な年になりました。今年はよりよい年にしたいものです。（S38浅野勝吾）

●現役を完全リタイアしてから1年を経過しようとしています。連日の休暇を3＋2に分類し、充実した日々にしたいと思っています。1.家庭のこと。2.田舎の故郷会である在京田尻会のこと。3.趣味である囲碁・将棋の練習。αとして居住市のお手伝いや旅行等である。（S38高橋忠世）

●現在、厚生省中央社会保険医療協議会（中医協）専門委員として、24年度診療報酬改定に向けて中医協総会に出席しています。（S45日本放射線技師会 北村善明）

### 心よりご冥福をお祈りいたします

| | |
|---|---|
| 遠藤　惇氏 | （昭和26年卒）平成23年6月2日 |
| 藤本　巌氏 | （昭和26年卒）平成23年7月17日 |
| 金子　康氏 | （昭和28年卒）平成23年9月2日 |
| 高橋　範志氏 | （昭和28年卒）平成23年3月30日 |
| 加藤　修氏 | （昭和31年卒）平成23年7月13日 |
| 今野　順隆氏 | （昭和32年卒）平成23年11月3日 |
| 佐々木孝男氏 | （昭和35年卒）平成23年7月31日 |

## 編集後記

四校新年会や同窓会総会に、音楽を取り上げる機会が多くなってきておりますが、これまでの出演者は全て同窓生です。しかし、今総会の出演者は卒業生ではありません。不肖の娘です。「同窓生ではない」と、私は難色を示しましたが、周囲の強い言葉に背中を押され合意しました。（曽根）

## 【お知らせ】

**平成24年度**
**在京古高同窓会定時総会・懇親会**

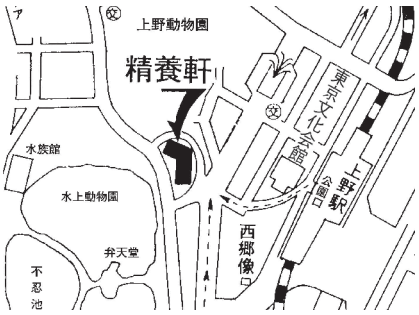
【日　　時】平成24年7月7日（土）
11：30～15：00

【会　　場】上野精養軒
電話 03-3821-2181

【会　　費】8,000円

【演　　奏】曽根麻矢子氏（チェンバロ）

【交通案内】JR上野駅 公園口から徒歩5分



曽根麻矢子氏 プロフィール

東京生まれ。幼少期より音楽の才能に恵まれ、玉川学園小学部在学中に國際舞台での活躍を目指し、桐朋学園附属「子供のための音楽教室」に入室。桐朋学園附属高校ピアノ科在学中にチェンバロと出会い、通奏低音奏者として活動を始める。1986年ブルージュ（ベルギー）国際コンクールに入賞。国立音大音楽研究所研究員を経て1990年よりパリに拠点を移し、イスラエル室内オーケストラ専属奏者となる一方、エラート・レーベル（フランス）初の日本人アーティストとしてCDデビュー、ヨーロッパと日本で活躍する。2000年より拠点を日本に戻し、精力的に演奏活動を行っている。これまでに「出光音楽賞」等を受賞。上野学園大学教授を務める。父親は在京同窓会副会長。